

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 道 徳

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観点	東書（東京書籍）	<新しい道徳> 101、201、301、401、501、601
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<p>○ 生命の尊厳については、次のような学習活動を取り上げ、生命ある全てのものをかけがえないものとして尊重し、大切にすることができるよう特色が見られる。</p> <p>低学年～ 心臓の音を聞いて感じることや動物の赤ちゃんにかけたい言葉、生きていることを感じる時や、自分が生まれたときに回りの人が思ったことについて考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、「いじめ」を題材として直接扱わずに、「みんなはともだち」「ともだちのことをかんがえて」と投げかけ、いじめをしない、いじめを許さない心を育てるのに適した活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 命のつながりを感じるときや助け合って生きていることを感じる時、命の尊さや大切さを感じる時について考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、「楽しいクラスをつくるのはだれだろう?」「学校を幸せな場所にするのはだれだろう?」と投げかけ、みんなが仲よく、いじめのない楽しいクラスをつくるためにすべきことや、日々の生活の中で自分でよく考えて行動していることについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 自他の命について大切にしていることや生きているからこそ感じる時やできること、人の命を守るために努力することについて考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、「大切にしたい。相手も、自分も。」と投げかけ、一人一人が相手意識をもち、身近な人の幸せを願ったり、相手へ思いを向けることの大切さ感じたりすることができる活動等を取り上げている。</p> <p>○ 自然については、次のような学習活動を取り上げ、自然の美しさや偉大さ、不思議さを感じることができるような特色が見られる。</p> <p>低学年～ 動物や植物を世話するときや自然や生き物を見たりさわったりしたときに心に残ることを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 身近な自然を大切にするためにしようと思うことやこれまで自然や生き物に、どのように接してきたかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 身近な自然を守るためにできることは、どのようなことができるか、解決していく必要がある自然環境の問題について話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 伝統と文化については、次のような学習活動を取り上げ、自国の伝統と文化を大切に、それらを育んできた我が国と郷土を愛する心を養うことができるような特色が見られる。</p> <p>低学年～ 自分の住む町や国の好きなところはどのようなところかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 外国の人に知ってもらいたい日本のよさは、どのようなものか、自分の生まれ育った町で大切にされているものは、どのようなものかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 自分の生まれ育った地域で大切にされている伝統や文化には、どのようなものがあるか、また地域のよさを守るために、どのように受け継いでいくことができるかを話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 情報化への対応については、次のような学習活動を取り上げ、単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば「節度、節制」や「規則の尊重」など関わりのある道徳的価値について考えを深めることができるような特色が見られる。</p> <p>低学年～ いたずら書きを扱い、いたずらや嘘が広がるとどのようなことになるかを考えた時、相手に嫌な気持ちを与える言葉について考えたりする活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 秘密の手紙を扱い、正しい行動について考えることや、スマートフォンやゲーム機を扱うために、よく考えてよかったことやよく考えなくて失敗したことにはどのようなことがあるかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ インターネットに個人情報流すことを扱い、自分や他者を守るために守らなければならないきまりにはためには、どのようなことがあるかを話し合う活動等を取り上げている。</p>	

<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような特色が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え、議論するという点については、全学年に「話し合いの約束」や、コミュニケーション活動を通して道徳的価値を深める「出会う・ふれ合う」を配置し、友達と心の交流を図り、多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるようになっている。 ・問題解決的な学習について、第3学年以上は「問題を見つけて考える」構成とし、「とびらのページ」「考えるポイント」「考えるステップ」の3つのステップを通じて、自分の生き方を主体的に考え、判断し、意欲的に行動できるようになっている。 ・体験的な学習については、各学年に、生活科や総合的な学習の時間、社会科に取り組んだ体験活動との関連を図った教材を配置する等、体験活動で育まれた道徳性をさらに高めることができるような特色が見られる。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>* Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を表す。</p> <p>第1学年～ A 10教材、Bは9教材、Cは9教材、Dは6教材、全体で34教材であり、総ページ数は125ページになっている。(判型はAB判)</p> <p>第2学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは10教材、Dは7教材、全体で35教材であり、総ページ数は143ページになっている。(判型はAB判)</p> <p>第3学年～ Aは9教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは7教材、全体で35教材であり、総ページ数は165ページになっている。(判型はAB判)</p> <p>第4学年～ Aは9教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは7教材、全体で35教材であり、総ページ数は169ページになっている。(判型はAB判)</p> <p>第5学年～ Aは8教材、Bは7教材、Cは12教材、Dは8教材、全体で35教材であり、総ページ数は181ページになっている。(判型はAB判)</p> <p>第6学年～ Aは8教材、Bは7教材、Cは12教材、Dは8教材、全体で35教材であり、総ページ数は197ページになっている。(判型はAB判)</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 自らを振り返るという点については、各学年に、自分の成長を見つめる「学習の振り返り」、1年間の学習を振り返る「これからもかがやく自分に」を配置し、自らの道徳的な成長を実感し、新たな課題や目標をもち、次の学年へつなげることができるようになっている。</p> <p>○ 家庭や地域との連携を深めるという点については、各学年に、家庭や地域活動に関する題材を取り上げ、家庭や地域社会の一員としての役割と責任の自覚を深められるようにしている。また、「付録 つながる 広がる」を巻末に配置する等、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるような特色が見られる。</p> <p>○ 使用上の便宜については次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習の進め方と授業の様子を具体的に示すページを設けている。 ・特別支援教育やバリアフリーおよび色覚多様性などの観点から、ユニバーサルデザインに対応した教科書となっている。
<p>その他</p>	<p>○ オリエンテーションページに道徳のイメージをもたせるような特色が見られる。特に、1学年の導入では、スタートカリキュラムにも配慮し、幼児期からのつながりが示されている。高学年では中学校とのつながりに配慮し、自己の生き方関わる教材が配置されている。</p> <p>○ 先人の伝記等の扱いで、全学年で20人の人物が取り上げられている。</p>

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 道 徳

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観点	学図 (学校図書)	<かがやけ みらい 小学校道徳> 102・103、202・203、302・303、402・403、502・503、602・603
<p>取扱内容</p> <p>学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等</p>	<p>○ 生命の尊厳については、次のような学習活動を取り上げ、生命ある全てのものをかけがえないものとして尊重し、大切にすることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 動植物の子育て、新しい生命が誕生する時の親の気持ち、歌詞を元にしたどのようなどきに生きていることがすばらしいと感じるかについて考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、相手からの思いやりを受け取ったときに感じる気持ち、誰にでも公平に接することのたいせつさ、やくそくことを守れなかったときに感じる自分の気持ちなどを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 命が過去からつながっていると感じる気持ち、健康な身体を通じて感じる命の大切さなどについて考える活動を取り上げている。いじめの問題については、いじめの問題については、友達との関わりの中での相互理解についてや、他人の意見への尊重、ユニバーサルデザインを通じた公平への気づきなどについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 医療の現場がつなぐ命、家族とのつながりの中で感じる命への尊厳、病気を通じて気づく命の大切さなどについて考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、差別や偏見のない社会にしていくための理解や、相手の気持ちを押し量るといった気づきが自分の心にどのような感情を生み出すかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>○ 自然については、次のような学習活動を取り上げ、自然の美しさや偉大さ、不思議さを感じることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 学校や社会のなかで関わりが出来る生き物にどのような気持ちで接すれば良いのか、自然環境で生きる動植物の環境と命について考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ ありのままの自然に対する理解、社会と自然への共存、人と自然が調和する生活についてどのような気持ちをもつことが良いかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 環境破壊ではなく人と自然の共生はどのような気持ちで行えば良いのか、持続可能な自然を活かした産業と共生などについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>○ 伝統と文化については、次のような学習活動を取り上げ、有形無形の美しさ、国や郷土への誇り、愛情を感じることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 身の回りにある昔からの風習や、自分の生まれ育った町に対する歴史への理解についてどのような気持ちを持てば良いのかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 日本に伝わる伝統を食の文化を通じて知ること、まちの歴史を残すことで気づく伝統の大切さについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 伝統がそれを支える人たちの、どのような思いで受け継がれてきたのか、伝統を守ってきた先人たちの知恵について考える活動等を取り上げている。</p> <p>○ 情報化への対応については、次のような学習活動を取り上げ、単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば「節度、節制」や「規則の尊重」など関わりのある道徳的価値について考えを深めることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 相手に対し、どのような伝え方をすれば正しいのか、インターネットを使う際の約束事の大切さや気をつけることについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ SNSの扱いの中で、文字だけのやり取りの中で相手と分かり合うためにはどのようなことに気をつければよいのかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ SNSでの情報の取り扱いが自分以外の相手に影響を与えること、正しい情報のやり取りの大切さ、思い込みでの情報をうのみにすることについてどのような気持ちを持てば良いのかを考える活動等を取り上げている。</p>	

<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え、議論する授業づくりについては、各学年の別冊に、教材を通して道徳的価値に迫る発問「かんがえよう」や自らを見つめ振り返る発問「みつめよう」等のマークを配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるようになっている。 ・問題解決的な学習については、各学年の別冊に、発問「自分の考え」、「友達の考え」を配置し、他社との対話を通じて学びを深めることや活動を通じて自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようになっている。 ・各学年の別冊に「心のパレット」を配置し、道徳的価値を見つけたり、多面的・多角的なものの見方や体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようになっている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>* Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは10教材、Dは6教材、全体で34教材であり、総ページ数は別冊を含め164ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第2学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は別冊を含め160ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第3学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は別冊を含め180ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第4学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は別冊を含め184ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第5学年～ Aは9教材、Bは7教材、Cは13教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は別冊を含め200ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第6学年～ Aは9教材、Bは7教材、Cは13教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は別冊を含め200ページとなっている。（判型はAB判）</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 自らを振り返るという点については、各学年に、学習を振り返る「つなげていこう」欄を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。</p> <p>○ 家庭や地域との連携を深めるという点については、各学年の別冊に、学習内容を解説し、家庭教育との連携を図ることを目的とした「保護者の方へ」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができようになっている。</p> <p>○ 使用上の便宜については次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・全ての児童が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインなどが採用されている。
<p>その他</p>	<p>○ 読本である「読みもの」と書き込みなどを促す「活動」が分冊となっている。</p> <p>○ 分冊「活動」に道徳的価値に迫る効果的な活動をマーク化して、授業での扱いを明確にしている。</p> <p>○ 各教材にQRコードで補助資料を配している。</p>

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 道 徳

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観点	教出(教育出版)	<小学道徳 はばたこう明日へ> 104、204、304、404、504、604
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<p>○ 生命の尊厳については、次のような学習活動を取り上げ、生命ある全てのものをかけがえないものとして尊重し、大切にすることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 動物の赤ちゃんにはどんな力がつまっているかや、生きているからできることは何か、命という言葉聞いてどのようなことを思い浮かべるかや、今まで生きてきて楽しかったことやできるようになったことは何かについて考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、仲間はずれにしないためにどんなことに気を付けるとよいかや、本当の友達とはどのような友達のことをいうかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自分の命だけでなく動植物など命あるものを大切にすること、「生きている」と感じることはどのようなことか、自分の命を支えているものは何か、精一杯生きるということはどのようなことかについて考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、友達とよりよい関係をつくるには何が大切かや、いじめを起こさないために自分にできることは何かについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 「命を輝かせる」とはどのようなことか、自分の命が「生かされている」ものと思うと自分の生き方はどのように変わるかについて話し合う活動等を取り上げている。いじめの問題については、ネットいじめを防ぐために自分は何を大切にしたいと思うかや、いじめの起こらないクラスにするために自分にできることはどのようなことがあるかについて、話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 自然については、次のような学習活動を取り上げ、自然の美しさや偉大さ、不思議さを感じることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 自然のどのようなところがよいかや自然の中でどのような遊びをしたいか、春の素敵なおとまりや自分たちの回りにある春はどのようなものがあるかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自然を大切にすることとはどのようなことかや、自然や動物を大切にするために自分ができることは何かについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 環境を守るために自分たちができることはどのようなことかや、どのようにしたら身近な自然環境を守っていくことができるかについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 伝統と文化については、次のような学習活動を取り上げ、有形無形の美しさ、国や郷土への誇り、愛情を感じることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 自分の住むところにはどのような行事があるかや、自分の生まれ育ったふるさとや住んでいる町のよさについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自分の住んでいる地域の行事や活動に参加するとき、大切にするとよいことは何かや、日本や日本人のよいところについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 地域の伝統や文化を受け継ぐときに必要なことはどのようなことかや、地域の未来を考えて自分の住む地域で大切に受け継いでいきたいことについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 情報化への対応については、次のような学習活動を取り上げ、単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば「節度、節制」や「規則の尊重」など関わりのある道徳的価値について考えを深めることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 掲示板を扱い、勝手に情報を書き込むことはなぜよくないのかや、電話を扱い、知らない相手から、学級の友達の電話番号を教えてほしいと言われたとき、どのように受け答えをするかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ ゲーム機を扱い、ゲーム依存にならないためにどのようなことに気を付けるかや、インターネットを扱い、自分の情報を守るために大切なことは、どのようなことかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 携帯電話を扱い、インターネットでのいじめを防ぐために大切なことはどのようなことかや、電子掲示板を扱い、社会を支えている法やきまりを守ることの大切さとは、どのようなことかについて話し合う活動等を取り上げている。</p>	

<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考え、議論する授業づくりについては、各学年に、学習の流れを想定した「学びの手引き」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるようになっている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、学習のねらいを明確にした「導入」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようになっている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、役割演技を通して道徳的価値の理解を深める「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようになっている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>* Aは「主として自分自身に関する事」、「Bは「主として人との関わりに関する事」、「Cは「主として集団や社会との関わりに関する事」、「Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは10教材、Bは7教材、Cは12教材、Dは7教材、全体で36教材であり、総ページ数は130ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第2学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは8教材、全体で37教材であり、総ページ数は138ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第3学年～ Aは11教材、Bは10教材、Cは13教材、Dは4教材、全体で38教材であり、総ページ数は148ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第4学年～ Aは9教材、Bは10教材、Cは13教材、Dは6教材、全体で38教材であり、総ページ数は160ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第5学年～ Aは9教材、Bは6教材、Cは14教材、Dは8教材、全体で37教材であり、総ページ数は164ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第6学年～ Aは12教材、Bは6教材、Cは11教材、Dは7教材、全体で36教材であり、総ページ数は168ページとなっている。（判型はAB判）</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 自らを振り返るという点については、各学年に、一年間の道徳の学習で一番心に残ったことを記入する「学びの記録」「一年間の道徳の学習を振り返ろう」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。</p> <p>○ 家庭や地域との連携を深めるという点については、各学年に、学校と家庭との連携を促すことを目的とした「家の人から一言」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている</p> <p>○ 使用上の便宜については次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・ 全ての児童が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインや、ユニバーサルデザインフォントなどが採用されている。
<p>その他</p>	<p>○ 北海道に関連した資料が含まれる教材がある。</p> <p>○ 1学年から「あいさつ」など礼儀・マナーに関する教材を掲載し、実生活に生かすことができるようになっている。</p> <p>○ 先人の伝記等の扱いで、全学年で40人の人物が取り上げられている。</p> <p>○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。（小学校用教科書目録 平成32年度使用 文部科学省）</p>

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 道 徳

番号 観点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
		光村 (光村図書)
取 扱 内 容 学習指導要領の総則及び各教科・内容等	<p>○ 生命の尊厳については、次のような学習活動を取り上げ、生命ある全てのものをかけがえないものとして尊重し、大切にすることができるような特徴が見られる。</p> <p>低学年～ 自分が生きていると感じるのは、どのようなときかや自分が大きくなったと感じるのは、どのようなときか、また命がつながっていると感じるのは、どのようなときかや命は大切だと感じるのは、どのようなときかを考える活動を取り上げている。いじめの問題については、自分がよくないと思うときを見たとき、どのようにするとよいかやみんなで楽しく過ごすためにできることは、どのようなことかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自分は命を大切にするために、何ができるかや自分の回りの生きている仲間とは、どのようなつながりがあるか、命は、なぜ大切だと思うか、人間と機械の違うところは、どのようなところかについて考える活動を取り上げている。いじめの問題については、自分が正しいと思ったことをすることが大切と感じるのは、どのようなときかや誰に対しても分け隔てをしないで接するために自分ができるとは、どのようなことがあるかや誰かを考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 精一杯生きるということは、どのような生き方をするかや生きていること、不思議さやすばらしさをどのようなときに感じるか、精一杯生きるということは、どのように生きることかや命がつながっているということは、どのようなことかについて話し合う活動を取り上げている。いじめの問題については、友達とすれ違いが起きたとき、どのようにするとよいかや誰にでも公正で公平な態度でいるために、どのような気持ちが必要かを話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 自然については、次のような学習活動を取り上げ、自然の美しさや偉大さ、不思議さを感じることができるような特徴が見られる。</p> <p>低学年～ 植物や動物を育てるときは、どのような気持ちで世話をしたらよいかや身近にある自然で、大切にしたいと思うのは、どのようなことかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自分の学校や地域で、どのように自然と関わっているかや自然を大切にするために、自分にできることは、どのようなことかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 自然と人は、どのように関わっていくとよいかや自分の回りにある自然を大切に活動には、どのようなものがあるかについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 伝統と文化については、次のような学習活動を取り上げ、有形無形の美しさ、国や郷土への誇り、愛情を感じることができるような特徴が見られる。</p> <p>低学年～ 自分が知っている昔の遊びは、どのようなものがあるかやおせち料理の他に、願いを込めて作られた日本の料理にはどのようなものがあるかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 風呂敷のように、日本で昔から使われている道具には、どのようなものがあるかや自分の生まれ育った地域に古くから伝わっていることで、未来へ残していきたいと思うことは何かを考えるとよいかや自分の回りには、どのようなものがあるかや自分の生まれ育ったところに対して、どのような思いをもっているかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>○ 情報化への対応については、次のような学習活動を取り上げ、単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば「節度、節制」や「規則の尊重」など関わりのある道徳的価値について考えを深めることができるような特徴が見られる。</p> <p>低学年～ みんなが使う場所を扱い、どのようなことに気を付けなければいけないかや自分が作った作品を扱い、勝手にまねをされてしまったときにどのような気持ちになるかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ インターネットを扱い、夢中になりすぎないようにするために、どのようなことを大切にするかや電子メールを扱い、自分の考えや気持ちを相手が正しく受け取れるように伝えるには、どのような工夫をしたらよいかを考えるとよいかや自分の周りには、どのようなものがあるかや自分の生まれ育ったところに対して、どのような思いをもっているかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ インターネットを扱い、情報を発信するときに気を付けなければならないことや著作権や肖像権などが必要とされるのはなぜかを考えるとよいかや自分の周りには、どのようなものがあるかや自分の生まれ育ったところに対して、どのような思いをもっているかを考える活動等を取り上げている。</p>	

<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような特徴が見られる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考え、議論する点については、各学年に、学習のねらいを明確にする「キャラクターによる問いかけ」や主体的に考え、話し合うための言語活動を位置づけた「考えよう・話し合おう」、2学年以上に学習したことを他教科の内容や特別活動と関連づける「つなげよう」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるようになっている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、学びのめあてとめあてに沿った発問を示す「考えよう・話し合おう」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようになっている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、役割演技を通して道徳的価値の理解を深める「演じて考えよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようになっている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> * Aは「主として自分自身に関する事」、Bは「主として人との関わりに関する事」、Cは「主として集団や社会との関わりに関する事」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 <p>第1学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは5教材、全体で34教材であり、総ページ数は143ページとなっている。（判型はB5変形判）</p> <p>第2学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは12教材、Dは5教材、全体で35教材であり、総ページ数は167ページとなっている。（判型はB5変形判）</p> <p>第3学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは12教材、Dは5教材、全体で35教材であり、総ページ数は183ページとなっている。（判型はB5変形判）</p> <p>第4学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは12教材、Dは5教材、全体で35教材であり、総ページ数は191ページとなっている。（判型はB5変形判）</p> <p>第5学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は203ページとなっている。（判型はB5変形判）</p> <p>第6学年～ Aは8教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは7教材、全体で35教材、総ページ数は219ページとなっている。（判型はB5変形判）</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らを振り返るという点については、各学年に、「学習のまとめ」の区切りに道徳で学んだことを記録する「学びの記録」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるという点については、各学年に、長期休業中の自主的な学びや家庭での話し合いにつなげる「夏休みの前に」、「冬休みの前に」等を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・ 全ての児童が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインやユニバーサルフォントが採用されている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道に関連した資料が含まれる教材がある。（第4学年、第5学年、第6学年、各1箇所） ○ 全学年を通して「いじめ」と「情報モラル」について教材とコラムを組み合わせたユニットを設定し、児童が考えを深める工夫がなされている。中学年・高学年はさらに「国際理解」、「福祉・共生」、「環境」についてもユニットが設定されている。 ○ 現行版よりも新版の方が、文章が短く、文字は大きく見やすい紙面となっていることからページ数増となっている。 ○ 先人の伝記等の扱いで、全学年で28人の人物が取り上げられている。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 道 徳

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観点	日文（日本文教出版）	<小学道徳 生きる力> 106・107、206・207、306・307、406・407、506・507、606・607
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取扱内容</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等</p>	<p>○ 生命の尊厳については、次のような学習活動を取り上げ、生命ある全てのものをかけがえないものとして尊重し、大切にすることができるような工夫が見られる。</p> <p>低学年～ 今までに生まれたての命と出会ったことはどのようなことがあるかや、命って大切だなと思ったのはどんなときか、自分が大きくなったと思うのはどのようなときか、自分の命の大切さや生きているからできることはどんなことかについて考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、正しいことができたときと、できなかったときの気持ちを比べることや、正しいと思うことをするには、どのようにしたらよいかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 命を大切にするためにどのようなことに気を付けたいか、かけがえない命をどのように守っていくか、身の回りの命を大切にするためにできることは何かや、命あるものを大切にすることは、どのようなことかについて考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、どの人でも大切にするために気を付けたいことはどのようなことかや、誰にでも分け隔てなく接するためには、どのような考えが大切か等について考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 命の大切さをどのようなときに感じるかや、精一杯生きるとはどのような生き方だと考えるか、どのようなときに生きることの大切さを感じるか、命あるものをつなげていくには、どのような思いや考えをもつことが大切かについて話し合う活動等を取り上げている。いじめの問題については、集団や社会の中で正義を実現するにはどのようなことが大切かや、身近にある不公平や差別に対して、どのように立ち向かっていきたいかについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 自然については、次のような学習活動を取り上げ、自然の美しさや偉大さ、不思議さを感じることができるような工夫が見られる。</p> <p>低学年～ 生き物に優しくしたときどのような気持ちだったかや、生き物を観察したり生き物について話を聞いたりしたときは、どのようなことを思ったかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 動植物の世話をするとき大切にしたいことはどのようなことかや、人間と自然の生き物が共に生きる社会をつくるために大切なことは何かについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 自然を大切にしたいと思ったことにはどのようなことがあるかや、身近な自然環境を守るためにどのような心構えが大切かについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 伝統と文化については、次のような学習活動を取り上げ、有形無形の美しさ、国や郷土への誇り、愛情を感じることができるような工夫が見られる。</p> <p>低学年～ 日本に昔から伝わるもので好きなものは何かや、地域の祭りにはどのような願いが込められているかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 普段の生活の中にある日本や地域の文化にはどのようなものがあるかや、世界の人々に感動を与える日本の文化にはどのようなものがあるかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 伝統や文化を大切に守り続けることのよさとはどのようなことかや、ふるさとの誇りを地域の人たちが大切に守り続けている思いについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 情報化への対応については、次のような学習活動を取り上げ、単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば「節度、節制」や「規則の尊重」など関わりのある道徳的価値について考えを深めることができるような工夫が見られる。</p> <p>低学年～ 嘘やごまかしをしないことが、どうして大切なのかや、電話の受け答えで相手によって話し方を変えるのはなぜかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ インターネットを扱い約束を守るには、どのような考え方が大切かや、メールを</p>	

	<p>扱い、自分たちの学校や学級のよさを紹介するとしたら、どのようなことがあげられるかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 携帯電話を扱い、インターネットでのいじめを防ぐために大切なことはどのようなことかや、携帯電話を扱い、毎日同じリズムで生活するためには、どのようなことに気を付ければよいかについて話し合う活動等を取り上げている。</p>
<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考え、議論する工夫については、各教材のページに、児童が主題や教材内容を素早く理解することができ、授業の中に思考や議論のための時間を生み出しやすくする工夫や、考えを引き出し議論を活発にする「考えてみよう」を配置する工夫など、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができる紙面要素となっている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、問題を主体的に解決していくステップを例示した「学習の手引き」を配置し、道徳的実践意欲を育成するように工夫されている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、役割演技や動作化の写真を提示した「学習の手引き」を配置し、役割演技や話し合いなどの体験的な方法を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫されている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>* Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは5教材、全体で37教材であり、総ページ数は別冊を含め148ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第2学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは6教材、全体で38教材であり、総ページ数は別冊を含め164ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第3学年～ Aは11教材、Bは9教材、Cは12教材、Dは6教材、全体で38教材であり、総ページ数は別冊を含め176ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第4学年～ Aは9教材、Bは10教材、Cは13教材、Dは6教材、全体で38教材であり、総ページ数は別冊を含め184ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第5学年～ Aは8教材、Bは9教材、Cは14教材、Dは7教材、全体で38教材であり、総ページ数は別冊を含め184ページとなっている。（判型はAB判）</p> <p>第6学年～ Aは9教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは8教材、全体で38教材であり、総ページ数は別冊を含め184ページとなっている。（判型はAB判）</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 自らを振り返るための工夫については、各学年に1冊、別冊の「道徳ノート」が付いている。各教材につき1ページの構成となっており、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。</p> <p>○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、別冊の「道徳ノート」に「保護者記入欄」を配置し、家庭や地域社会との連携による指導の充実や、家庭や地域社会との共通理解を深めることができようになっている。</p> <p>○ 使用上の便宜については次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の学習での学び方を示すページを設けている。 ・ 全ての児童が学習しやすいようカラーバリアフリー、ユニバーサルデザインなどが採用されている。
<p>その他</p>	<p>○ 北海道に関連した資料が含まれる教材がある。</p> <p>○ 1年生では幼保・小連携に、6年生では小・中連携に配慮した、教材の選定や表現方法、レイアウト等において工夫されている。</p> <p>○ 先人の伝記等の扱いで、全学年で24人の人物が取り上げられている。</p> <p>○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。(小学校用教科書目録 平成32年度使用 文部科学省)</p>

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 道 徳

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観点	光文（光文書院）	<小学道徳 ゆたかな心> 108、208、308、408、508、608
取扱内容 〔学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等〕	<p>○ 生命の尊厳については、次のような学習活動を取り上げ、生命ある全てのものをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることができるようになっている。</p> <p>低学年～ かけがえのない命の大切さを知り、生きることの喜びを考えたり、家族との関わりを描いた教材から、命の尊さを実感できたりするような活動を取り上げている。いじめの問題については、擬人化した動物を登場人物とした物語を取り上げ、思いやりや友情の大切さを学び、より良い人間関係を築く基礎となる豊かな心を養える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自他の生命のつながりについて知ることや、生命の尊さへの理解を深めることで、かけがえのない命をいとおしむ心を育てたり、人の命を救う行動をしている人を知ることによって命の尊さを感じ、自他の命を大切に考えたりする活動等を取り上げている。いじめの問題については、相手の気持ちや立場を考えることの大切さや、友達関係のよさを描いた教材や、また、自分とは違った考えをもつ人を理解し、思いやりの心をもって学校生活を送ることについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 命にかかわる活動をしている人物や、苦難の中で懸命に生きる人物など、実在の人物の生き方を通して、命についてより深く考える活動等を取り上げている。いじめの問題については、相手の立場や気持ちを思いやり、信頼し合い、助け合っていくために大切なことについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 自然については、次のような学習活動を取り上げ、自然の美しさや偉大さ、不思議さを感じることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 身近な動物や自然と触れ合う素晴らしさを感じたり、日常生活の中で自然と共に生きていることに気付いたり、自然を大事に守り育てることについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自然の中にある美しさや不思議さに目を向けることで、自然と共に生きていることに気付いたり、自然を大切にすることや、自然の美しさに感動したりする活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 自然の偉大さに触れる教材や、環境問題について考える教材を通して、自然を大切に、環境保全に寄与する態度を養ったり、自分も自然の一員であることを実感したりする活動等を取り上げている。</p> <p>○ 伝統と文化については、次のような学習活動を取り上げ、有形無形の美しさ、国や郷土への誇り、愛情を感じることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 自分の住む町のよいところや、受け継がれている文化にはどのようなものがあるのかを知ることや、文化と伝統の大切さを知り、継承していこうとする活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 身近にある昔から残っているものを題材に、自分の住む町にあるものや、受け継がれている文化、日本人の心に触れながら、大切にしていきたいものは何かについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 郷土の伝統や文化を尊重するとともに、他国も尊重する態度を養うため、「茶道」や「里山」、「熊本城」などの事例から、自国の文化や歴史を尊重することについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 情報化への対応については、次のような学習活動を取り上げ、単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば「節度、節制」や「規則の尊重」など関わりのある道徳的価値について考えを深めることができるようになっている。</p> <p>低学年～ スマートフォンやネットを扱い、知ってほしいマナーを学ぶだけでなく、そのマナーが必要な理由についても考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 児童が会うであろう生活場面を通して、インターネットを使う時のマナーを考えたり、友達との間で問題が起きたとき、相手を嫌な気持ちにさせず思いを伝え、友達の心を大切にすることについて考えたりする活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 著作権に関するトラブルについて、調べ学習などの事例から相手の価値を尊重することについて考えたり、情報化社会におけるコミュニケーションの問題を取り上げながら、情報機器の適切な使い方について考えたりする活動等を取り上げている。</p>	

<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え、議論する授業づくりについては、各学年に、オリエンテーションページを配置して、児童が常に「なぜだろう」「どうしてだろう」と問いをもって授業に臨み、話し合いの方法やその重要性、目的を明確にすることで、児童が多様な感じ方や考え方に接し、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるようになっている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、児童に寄り添う「キャラクター」を設定し、共感や気付き、考えるためのポイントや考えを広めるための見方など、様々な「投げかけ」を行うことで、多様な感じ方や考え方を実感できるようになっている。また、多面的・多角的に考える発問など、児童の思考を促すよう考慮されている。 ・体験的な学習については、各学年に、学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさなどを体験する活動を提示し、他教科の学習や家庭・地域での活動で実際に行うことが提示されている。また、コラム「みんなで作ってみよう！」を配置し、コミュニケーション能力を高め、より良い人間関係の構築を図り、主体的・対話的で深い学びの実践としても活用できるように工夫されている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>* Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは12教材、Bは9教材、Cは12教材、Dは7教材、Eは2教材、全体で40教材であり、総ページ数は152ページとなっている。（判型はA4判小）</p> <p>第2学年～ Aは11教材、Bは10教材、Cは13教材、Dは6教材、全体で40教材であり、総ページ数は160ページとなっている。（判型はA4判小）</p> <p>第3学年～ Aは7教材、Bは12教材、Cは14教材、Dは7教材、全体で40教材であり、総ページ数は176ページとなっている。（判型はA4判小）</p> <p>第4学年～ Aは8教材、Bは11教材、Cは14教材、Dは7教材、全体で40教材であり、総ページ数は180ページとなっている。（判型はA4判小）</p> <p>第5学年～ Aは10教材、Bは9教材、Cは13教材、Dは8教材、全体で40教材であり、総ページ数は184ページとなっている。（判型はA4判小）</p> <p>第6学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは9教材、全体で40教材であり、総ページ数は188ページとなっている。（判型はA4判小）</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 自らを振り返るという点については、各学年に、授業後の心の動きや学びを継続して記入する「学びの足あと」を配置し、書き溜めることにより、児童自らが成長を実感し、新たな課題や目標を見つけていく学習に取り組めるようになっている。</p> <p>○ 家庭や地域との連携を深めるとい点については、各学年に、家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示した「ひろげる」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深め、学習したことが児童の日常生活へつながるように配慮されている。</p> <p>○ 使用上の便宜については次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・全ての児童が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインなどが採用されている。
<p>その他</p>	<p>○ 重点的に指導することがらについて、複数の教材を続けて学習することによって、道徳的理解を深め、道徳的実践意欲と態度を高めるよう工夫されている。</p> <p>○ 先人の伝記等の扱いで、全学年で21人の人物が取り上げられている。</p>

令和2年度から使用する小学校用教科用図書 の 答申書

教科名 道 徳

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観点	学研（学研教育みらい）	<新・みんなの道徳> 109、209、309、409、509、609
<p>取扱内容</p> <p>学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等</p>	<p>○ 生命の尊厳については、次のような学習活動を取り上げ、生命ある全てのものをかけがえないものとして尊重し、大切にすることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 日常のなかでの命とのつながり、相手の成長の過程の中で感じる命の尊 さ、自分の命を宝物と感じるのは、どのようなときか、自分以外のものから与えら れる命への感謝について考える活動等を取り上げている。いじめ問題については、 よいことと、わるいことをしたときの気持ち、自分以外の考え方を受入れる、いっ しょにものごとを行うことについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 命を計りにした時の善悪の判断、命の循環、家族との別れは どうして 悲しみが深いのか、身体状態を通した命への感謝等について考える活動を取り上げ ている、いじめの問題については公平、公正の心や思いやりの中の心地よい生活、 長所を見つけて認める心について考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 友情を通じた相手の命に対する尊厳、かけがえない命、命に向かい使命を探究 する意欲、病気を通じた命への向き合い方について考える活動等を取り上げている。 いじめの問題については、いじめをされる側の心情や相手への思いやり、発言と行 動についての責任やお互いを分かり合うことの必要性について考え話し合う活動等 を取り上げている。</p> <p>○ 自然については、次のような学習活動を取り上げ、自然の美しさや偉大さ、不思議さを感じ ることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 生き物を大切にできたとき、どのような気持ちだったかや身近な動物や植物のた めに、自分にできることは何かについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 限りある自然を守るために、自分にどのようなことができるかや自然を慈しむ気 持ちは自分との関わりを作り出すことについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 地球環境を破壊する心、守る心は、どのような気持ちから生まれるかや人の文化 や生活とどのような繋がりがあるかについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 伝統と文化については、次のような学習活動を取り上げ、有形無形の美しさ、国や郷土へ の誇り、愛情を感じることができるようになっている。</p> <p>低学年～ 自分の生まれ育った町の生活や歴史、日本の行事で好きなものや意味について考 える。違う国の言葉の違いや食事や交流について考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 各地域で行われている伝統行事、生活や文化で工夫されてきた物に対する理解、 国際的な交流が新しい文化を生み出すことについて考えることを取り上げている。</p> <p>高学年～ 食を通じた日本の伝統的な風習や外国からみた日本人が持つ精神性にはどのよう なものがあるかについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 情報化への対応については、次のような学習活動を取り上げ、単に情報機器の操作や活用 など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば「節度、節 制」や「規則の尊重」など関わりのある道徳的価値について考えを深めることができるよう になっている。</p> <p>低学年～ 作成したニュースの記事を扱い、間違ったことが広まると、どのようになるか について考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ パソコンを扱い、約束を守るために必要なことやインターネットを活用する際の 個人情報への扱い、情報が広く知られてしまうと、どのようなことが起きるかにつ いて考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ インターネットとSNSへの扱いとルールや情報の発信と見分けることの必要性、 情報を取り扱う際に注意しなければならない相手へのマナーについて話し合う活動 等を取り上げている。</p>	

<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考え、議論する授業づくりについては、各学年に、話し合いや記述、発表などの課題を示す4種類の「学び方のページ」を設け、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるようになっている。 ・ 自己を見つめ、自らの生き方につなげて考える「学び方のページ（つなげよう）」を配置し、内面的な成長や内観を深めるようになっている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、問題解決的な学習の道筋を紹介する「学び方のページ（ふかめよう）」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、多面的・多角的に学ぶことで課題が培われるようになっている。 ・ 様々な情報の受け取りと視野を広げるための「学び方のページ（ひろげよう）」を配置し、客観的な視点から個々の価値観を醸成するようになっている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた「学び方のページ（やってみよう）」を配置し、体験的行為や役割演技などを通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようになっている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> * Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を表す。 <p>第1学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは9教材、Dは6教材、全体で34教材であり、総ページ数は136ページとなっている。（判型はA4判）</p> <p>第2学年～ Aは13教材、Bは7教材、Cは9教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は140ページとなっている。（判型はA4判）</p> <p>第3学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は152ページとなっている。（判型はA4判）</p> <p>第4学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは6教材、全体で35教材であり、総ページ数は156ページとなっている。（判型はA4判）</p> <p>第5学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは9教材、Dは8教材、全体で35教材であり、総ページ数は164ページとなっている。（判型はA4判）</p> <p>第6学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは9教材、Dは8教材、全体で35教材であり、総ページ数は168ページとなっている。（判型はA4判）</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らを振り返るという点については、各学年に、心に残ったことなどを記入する「心のたからもの」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ いじめ防止対策推進法の観点も取り入れるユニット教材（複数教材を連続して学習することで、重点テーマについて広い観点で深く学ぶことが出来る構成）を取り入れている。 ○ いじめを生まない力を引き出す手法として直接的アプローチ、間接的アプローチが可能な教材を用いている。 ○ 使用上の便宜については次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の学習の進め方を示すページを設けている（巻頭オリエンテーションページ） ・ 全ての児童が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインなどが採用されている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道に関連した資料が含まれる教材がある。 ○ 色分インデックスや取り組み方マークを使用し、児童の主体的な学びに配慮している。 ○ A4版サイズを生かした迫力ある写真を使用している。 ○ QRコードを使ってインターネット上の補助教材にアクセスすることが出来る。

教科名 道 徳

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観点	廣あかつき (廣済堂あかつき)	<みんなで考え、話し合う 小学生の道徳> 110・111、210・211、310・311、410・411、510・511、610・611
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・ 各学年の目標・内容等	<p>○ 生命の尊厳については、次のような学習活動を取り上げ、生命ある全てのものをかけがえないものとして尊重し、大切にすることができるようになっていく。</p> <p>低学年～ どのようなときに生きていると感じるかや動物の赤ちゃんに、どのようなことを言いたいのか、命の大切さを感じるときは、どのようなときか、命とは、どのようなものかと思うかについて考える活動を取り上げている。いじめの問題については、どのようにしたら、友達を悲しませたり友達とけんかをしたりしないで、仲よくすることができるかや誰かをいじめたり、いじわるをしたりする人がいたら、どのようにしたらよいかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 家の人たちは、どのような思いで命を守ってきたのかや命がつながっていくということは、どのようなことか、自分の命が大切なのは、なぜだと思うか、命とは、どのようなものか考える活動を取り上げている。いじめの問題については、友達と互いに心が通じ合えたと思ったことは、どのようなことがあるかや自分が正しいと思ったことを自信をもってすることができる人は、どのような心を持っているのかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ なぜ、命はかけがえないものなのかや命を大切に生きていくということは、どのようなことか、命の価値や重さについて、どのようなと感じるかや命のつながりについて、どのようなことを思うか考える活動を取り上げている。いじめの問題については、いじめを許さない、見過ごさないために、自分はどのような心を育てたいかやいじめをなくすために、できることやしなければならないことはどのようなことか考える活動等を取り上げている。</p> <p>○ 自然については、次のような学習活動を取り上げ、自然の美しさや偉大さ、不思議さを感じることができるようになっていく。</p> <p>低学年～ 生き物の世話をしたとき、どのような気持ちで世話をしたかや動物の命を大切にするために、どのようにしたらよいかを考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自然の生き物にとっての幸せとは、どのようなことかや自然環境を守るために、自分にはどのようなことができるか考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 自然を大切にするために、どのようなことが必要かや環境問題の解決に向けて、身近なところでできることは何かを考える活動等を取り上げている。</p> <p>○ 伝統と文化については、次のような学習活動を取り上げ、有形無形の美しさ、国や郷土への誇り、愛情を感じることができるようになっていく。</p> <p>低学年～ 自分の生まれ育った町の好きな場所はどこで、なぜ好きなのかや町にはどのような祭りがあるかについて考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ 自分の生まれ育った郷土で、大切に受け継がれてきたものは何かや郷土や日本の自慢できるすてきなところは何か考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ 伝統や文化を受け継ぎ、発展させていくことは、なぜ大切なのかや国や郷土の伝統や文化を守っていくことには、どのような意味があるのかについて話し合う活動等を取り上げている。</p> <p>○ 情報化への対応については、次のような学習活動を取り上げ、単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、活用するのは人間であるからこそ、例えば「節度、節制」や「規則の尊重」など関わりのある道徳的価値について考えを深めることができるようになっていく。</p> <p>低学年～ 落書きを扱い、よく考えないで、よくないことをしてしまったことは、どのようなことがあるかや作成したニュースの記事を扱い、間違ったことが広まると、どのようなことになるか考える活動等を取り上げている。</p> <p>中学年～ インターネットを扱い、正しいと思うことを自信をもって行うためには、どのような心が必要かやどのようなことに気を付けなければならないか考える活動等を取り上げている。</p> <p>高学年～ インターネットを扱い、情報を得たり、発信したりするときどのようなことに心がけなければならないかやスマートフォンを扱い、節度を守り、節制を心がけることは、なぜ大切なのかを考える活動等を取り上げている。</p>	

<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動については、各学年に、児童が学習の見通しをもって自ら課題意識や問題追求への意欲を高める「考えよう 話し合おう」や別冊に、話し合い活動の記録ページを配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるようになっている。 ・問題解決的な学習については、第3学年以上に、児童が学習の見通しをもって問題追求への意欲を高める「学習の道すじ」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫されている。 ・体験的な学習については、各学年に、体験を想起させたり、役割演技を促したりする問いや活動を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようになっている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>* Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは10教材、Dは5教材、全体で34教材、総ページ数は別冊を含め148ページとなっている。(判型はAB判)</p> <p>第2学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは5教材、全体で35教材、総ページ数は別冊を含め156ページとなっている。(判型はAB判)</p> <p>第3学年～ Aは10教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは5教材、全体で35教材、総ページ数は別冊を含め164ページとなっている。(判型はAB判)</p> <p>第4学年～ Aは10教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは5教材、全体で35教材、総ページ数は別冊を含め176ページとなっている。(判型はAB判)</p> <p>第5学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは10教材、Dは6教材、全体で35教材、総ページ数は別冊を含め204ページとなっている。(判型はAB判)</p> <p>第6学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは10教材、Dは6教材、全体で35教材、総ページ数は別冊を含め212ページとなっている。(判型はAB判)</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 自らを振り返るという点については、各学年の別冊に、心に残った教材やその理由を記入する「心に残っている授業の記録」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。</p> <p>○ 家庭や地域との連携を深めるという点については、各学年の別冊に、家の人に見てもらったことを記録するチェック欄を設けた「心のしおり」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。</p> <p>○ 使用上の便宜については次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・全ての児童が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
<p>その他</p>	<p>○ 北海道に関連した資料が含まれる教材がある。(第1学年、第5学年、第6学年、各1箇所)</p> <p>○ 読本である「本冊」と内容項目別に構成している道徳ノートである「別冊」として2分冊となっている。</p> <p>○ 別冊は授業の記録欄を巻末に整理・統合することでページ数の削減を図っている。</p> <p>○ 先人の伝記等の扱いで、全学年で45人の人物が取り上げられている。</p> <p>○ 「学習を広げる」のなかで、本の紹介がある。</p>